



土坑2 遺物出土状況 (古墳時代)



ピット1 遺物出土状況 (鎌倉時代)



ピット2 遺物出土状況 (鎌倉時代)



竪穴住居模式図

竪穴住居では、床面や貯蔵穴から壺や甕、高杯、鉢などの土器が原位置で出土しています。

まとめ

今年度の調査では、甲賀市域でも数少ない古墳時代と鎌倉時代の集落の様相の一端を明らかにすることができました。みつかった竪穴住居は、泉古墳群（東罐子塚古墳・西罐子塚古墳）のつくられた時期に対応します。古墳時代の集落は、植遺跡（水口町植）で古墳時代中期中頃から形成されることがわかっていますが、今回の発見はこれをさかのぼる事例となります。

また、鎌倉時代の掘立柱建物や土壌墓は、室町時代以降、市域でつくられる城郭群の形成前史を知ることができる貴重な資料です。

調査は次年度も周辺で実施する予定です。さらに詳細が明らかになると考えられます。



竪穴住居1 床面遺物出土状況



竪穴住居2 貯蔵穴遺物出土状況

貴生川遺跡発掘調査現地説明会資料

平成26(2014)年3月9日(日) / 甲賀市教育委員会
公益財団法人滋賀県文化財保護協会



調査の概要

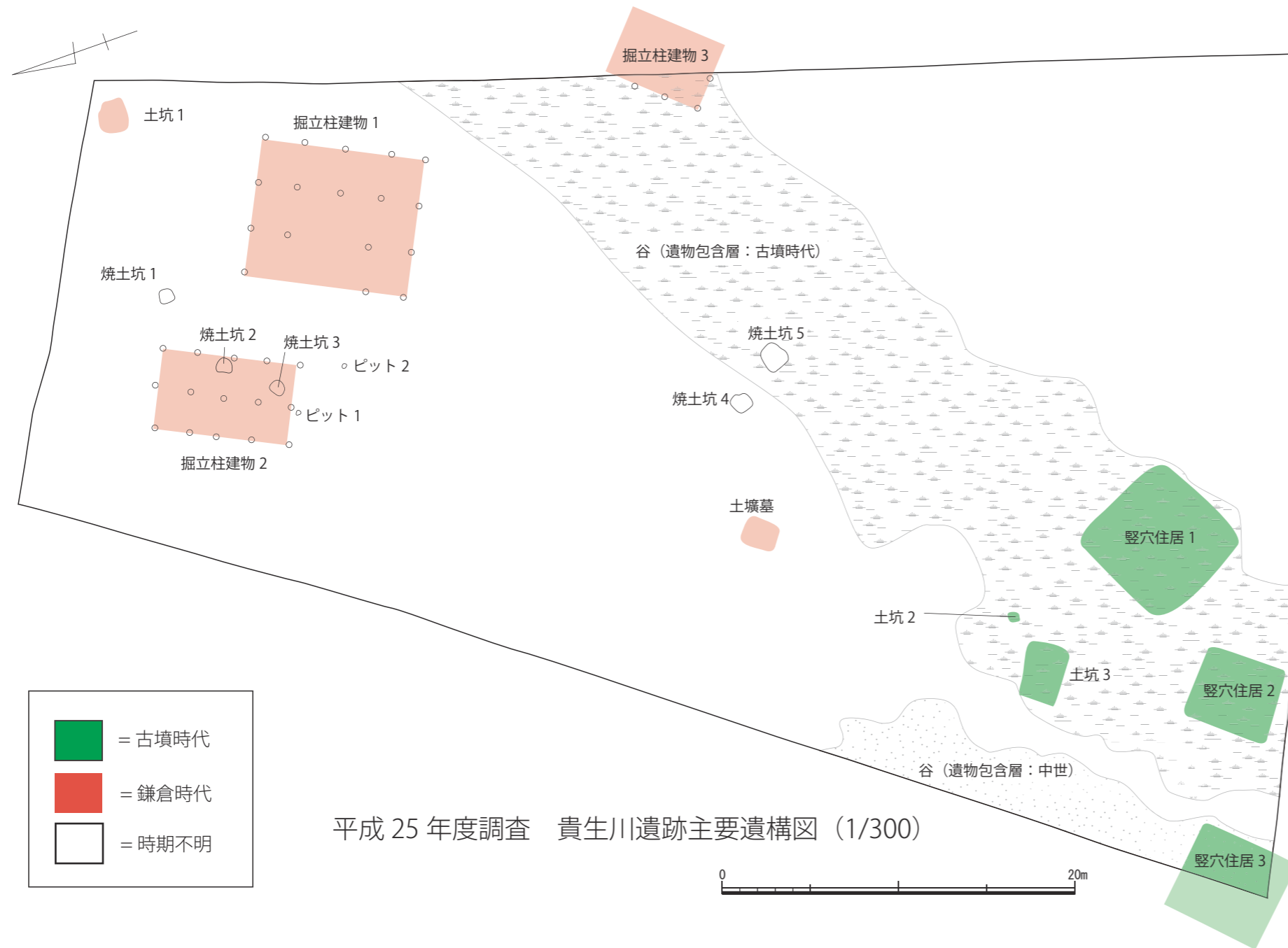
公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、甲賀市教育委員会からの依頼により、土地区画整理事業に伴い、甲賀市水口町貴生川に所在する貴生川遺跡の発掘調査を実施しています。

発掘調査は、平成25年10月から行っており、これまでに古墳時代中期(約1,600年前)の竪穴住居、鎌倉時代(約800年前)の掘立柱建物、土壌墓を確認しました。

中でも、古墳時代中期の竪穴住居は甲賀市域でも最も古いものと位置づけることができる新発見となりました。遺構の残りも良く、住居に付属する貯蔵穴からは土器が良好な状態で検出されています。



調査地遠景 (東より：奥に杣川と飯道山がみえる)



- = 古墳時代
- = 鎌倉時代
- = 時期不明



【土墳墓（鎌倉時代）】 約 2m×1.5m



【掘立柱建物 1（鎌倉時代）】 4間 × 3間 (約 9.2m×7.7m: 約 70 m²: 約 21 坪)



竪穴住居 1



竪穴住居 2

調査の成果

発見された主な遺構

【古墳時代】

竪穴住居 3 棟、土坑 1 基等

【鎌倉時代】

掘立柱建物 3 棟、土墳墓 1 基、土器埋納ピット等

【竪穴住居 1（左：古墳時代）】

当調査区で最大の住居 6.5m×6.2m (約 40 m²: 12 坪)

【竪穴住居 2（右：古墳時代）】 4.6m×4.3m (約 20 m²: 約 6 坪)